

# 雜 報

## 會 員 動 靜

敘正五位	從五位勳三等	服 部 清 一
敘從五位	正六位勳三等	三 井 圭 三
		(十二月十七日)
	海軍軍醫大尉	菅 田 直 樹
(各 通)	海軍軍醫大尉	高 橋 昌 夫
	海軍軍醫中尉	三 宅 正 一
	海軍軍醫中尉	林 成 道
賜一級俸		(十二月一日)
(各 通)	海軍軍醫大尉	長 谷 川 靜 一
	海軍軍醫大尉	吉 栖 生 一
賜二級俸		
免本職	吳海軍工廠醫務部部長海軍軍醫大尉	高 橋 昌 夫
	海軍軍醫大尉	高 橋 昌 夫
		(十二月二十日)
待命被仰付 <small>但吳ニ滯在スヘシ</small>	岡山醫科大學教授兼岡山醫科大學附屬醫學專門部教授	齋 藤 精 一 郎
依願免本官並兼官		
賜本俸一級俸	岡山醫科大學教授	齋 藤 精 一 郎
		(十二月二十一日)
敘勳六等授瑞寶章	正七位	野 上 尙 志
	陸軍一等軍醫從六位勳五等	赤 塚 二 郎
任陸軍三等軍醫正		(十二月二十五日)
	天龍軍醫長兼分隊長海軍軍醫大尉	栗 栖 幸 穂
免本職並兼職補對馬軍醫長兼分隊長		(十二月二十六日)
敘從四位	正五位勳四等	齋 藤 精 一 郎
敘正五位	正六位勳四等	岸 一 太
敘從五位	正六位	橫 川 定

(各 通)	從六位	西 川 義 英
	從六位	近 藤 喜 一
敘正六位		(十二月二十日)
鐵道醫ニ任ス	鐵道醫	岩 崎 衛 二
陸叙高等官六等	朝鮮總督府道技師兼朝鮮總督府道慈惠醫院醫官	井 上 八 重 二
年俸三千百圓下賜	鐵道醫	禰 屋 鑛
年俸二千四百圓下賜	鐵道醫	山 口 龍 契
年俸二千二百圓下賜	鐵道醫	岩 崎 衛 二
姫路鐵道治療所主任ヲ命ス		(十二月二十七日)
(各 通)	騎兵第九聯隊附陸軍一等軍醫	田 邊 貞 一
	歩兵第六十二聯隊附陸軍二等軍醫	力 丸 匡
依願休職並仰付		(十二月二十八日)
(各 通)	從七位	三 宅 助 一
	從七位	赤 木 金 太 郎
敘正七位		禰 屋 鑛
敘從七位		關 場 代 五 郎
		(十二月二十日)
敘正四位	從四位勳四等	齋 藤 精 一 郎
	從四位勳四等	齋 藤 精 一 郎
特旨ヲ以テ位一級被進		(一 月 十 日)

○田中政治君 先年渡米せられたる同君はバルモア大學に於て病理學研究の傍ら血精學をも研修し本月よりは血精學教室の助手として入室せらるる由其通信は左の如し

310-312 W. Monument st

Depart of Immunology the John Hopkins Univ.

Baltimore Md.

U. S. A.

○戸田茂君 曩日文部省より在外研究員を命せられたる同君は本月十八日神戸出帆の天洋丸にて米國に向て出發せられたり

- 赤尾壽君 は今般長春，滿鐵醫院婦人科に轉勤せられたり
- 荒木豊吉君 は豫て京都帝國大學醫學部法醫學教室に勤務し居られしか今般千葉醫科大學法醫學教室に轉勤せられたり
- 田代登君 は今般廣島縣立病院を辭し廣島市細工町清皮膚科院に勤務せられたり
- 板野秀夫君 豫て八幡製鐵所病院に勤務し居られし同君は今回岡山醫科大學助手に任せられ衛生學教室に勤務せられたり
- 太田顯君 は多年神戸市須磨浦療病院に勤務し居られしか今般辭職高松市栗林公園東門前通に於て開業せられたり
- 山本敏晴君 は豫て東京市淺草區諏訪町に於て開業中の處先般の大震災の爲め其業を中止し居られしか今般東京市牛込區横寺町に於て診療に従事せられたり
- 三木徳次君 は今般丸龜市中府二五〇に移轉せられたり